



志 本 重 吉

岡村重夫教授記念号によせて

関西学院大学社会学部長

萬 成 博

岡村先生は昭和50年3月に定年によって関西学院大学社会学部教授を退職される。先生は20年におよぶ大阪市立大学家政学部教授を勤務されたのちに、昭和45年4月に学院に就職され、社会福祉学原論の講義や演習を学部において、また地域福祉論を大学院の講義や演習の題目として担当された。5年の短い期間ではあったが、先生は社会福祉コースのカリキュラムの充実、大学院生の指導、人事の補充と後進の育成に努力された。ここに関学における先生の功績をこの記念号に記して、われわれの感謝の意を表明したい。

わが社会学部では社会福祉ユースの創設いらい、ケース・ワーク、カウスリング、コミュニティ・オーガニゼーション、精神治療などの社会福祉の実践的側面に重点をおいてきた。その面では日本社会福祉学会においても大きな業績をあげ、そして多大の声価を博してきたが、日本の国民経済が急速に成長し、社会福祉の問題が個人社会福祉から福祉社会体制をつくることに大きく前進してくるにつれて、学院の社会福祉も人間関係的な心理や生活におけるトラブルを解消するという伝統的なミクロ的な福祉のアプローチに反省がなされるようになってきた。

社会学部では早くから岡村先生を関学にむかえて社会福祉の理論的側面を強化し、また国家や地方自治体の主催する社会福祉組織の立案や実施にともなうマクロ的福祉論を担当してもらうことを期待していた。岡村先生の御都合もあって、このことは昭和45年まで実現できなかった。しかし先生は就任と同時にいろんな改革を推進された。本出祐之教授をむかえてケース、ワークの担当者を補充された。社会福祉組織論ないし社会福祉計画論の担当者として高田真治助手を養成され、先生の後任者として昭和50年度から専任講師となる予定である。

さらに先生は大学院の博士課程の充実に努力された。福祉計画論の専攻者を育成するとともに、自から老人福祉の国際比較研究を進められ、冷水豊もと助手を老人問題研究所員に推薦された。韓国より大学院に留学されている金相圭氏に「老人福祉の体系的研究―日・韓両国の比較研究―」のテーマを指導され、その研究成果は社会学研究科博士学位申請論文として、目下審査中である。審査に合格すれば社会学研究科第1号の博士が誕生する。

以上は先生の社会学部にたいする貢献の一端であるが、われわれはこれからも福祉コースの充実にあたり、先生の御指導と御援助に多くを期待するものであり、先生のこれからの御健康と御活躍を心からお祈りする。